処暑の候　皆様には恙なくお過ごしの事と、衷心よりお慶び申し上げます。
また皆様には日頃より、当支部運営に際して物心両面のご支援を賜り、厚く御礼申し上げる次第です。
さて八月は二日の十三時半より宮崎市民プラザにて、日本協議会主催で中国とベトナムの南シナ海に於ける衝突事件の直近の情況報告会がありました。
実際現場に赴かれた大葉勢講師が、ベトナム当局より頂いたＤＶＤを上映し乍らの報告で、絶対日本のＴＶニュース等では流れぬ映像を見てリアルタイムな緊迫感を感じさせられたところです。
翌三日は十三時より、南九州短大にて北朝鮮による拉致被害者救出大集会が盛大に開催され、河野県知事や戸敷市長を始め県議や市議、そして拉致問題に心を痛める県民多数が参加致しました。
県内外のマスコミも殆ど取材に来ていましたので、新聞やＴＶ等でご覧頂いた支部会員も多い事かと存じます。
そして十五日は、「第六九回大東亜戦争戦没者慰霊祭」が、宮崎神宮西神苑の護国神社境内にて、年老いたご遺族を中心に厳かに執り行われました。
その後神宮会館に会場を移し、昭和天皇をお偲びするＶＴＲを鑑賞しながら、正午からは日本武道館にて開催中の同慰霊祭に合わせ、在天のご英霊に対して参加者全員で哀悼の誠を捧げた次第です。
さて八月二九日は、平成二七年度予算概算要求の締め切りとなっていますが、防衛省は、前年度比一、一五五億円増の、４兆８９９４億円を要求しており、米軍再編や、沖縄の米軍基地返還に伴う経費なども加えれば概算要求の総額は五兆五四五億円と過去最大規模となります。
島嶼部に対する攻撃への対応では、与那国島への第三〇三沿岸監視隊（仮称）の新設とともに、新たな早期警戒（管制）機や滞空型無人機の取得、航空自衛隊那覇基地の第八三航空隊を「Ｆ１５」の二個飛行隊に再編して、第九航空団（仮称）として新編する事が盛り込まれました。
また将来へ向けた調査研究としては、多様な任務へ向けた対応能力とコンパクト化を両立した護衛艦建造や、水陸両用作戦における指揮統制・大規模輸送航空運用を兼ねた艦艇の導入、大規模災害や島嶼部攻撃を想定した高機動パワードスーツの基礎技術、２波長赤外線センサを活用した宇宙空間でのＪＡＸＡとの協力等の調査研究費が盛り込まれています。
他方、従来防衛装備品の購入は単年度契約のため高コスト調達となっている構造であり、当然財政法の改正が必要ですが、長期契約を可能とすることで、購入費の節減が盛り込まれており、例えば次期対潜哨戒機「Ｐ１」を毎年五機ずつ四年間購入し続けるのと、二〇機を一括契約するのとでは約四〇三億円のコスト削減に繋がると説明しているようです。
そして水陸両用車や垂直離着陸輸送機「ＭＶ２２」オスプレイの導入と警備

部隊の配置に伴う奄美大島の用地取得関連経費約三四億円も盛り込みました。
さらには、最新鋭ステルス戦闘機「Ｆ３５」を六機（九五九億円）取得し、無人偵察機「グローバルホーク」や新型早期警戒機を導入するのは、安部政権が昨年十二月に閣議決定した「防衛計画の大綱」で「常時継続的な情報収集・警戒監視・偵察活動」の強化を掲げている為と、産経新聞は報道しています。
尚、時事通信社によれば、海上保安庁は外国漁船に対応するため巡視船を増強し、情報収集等で防衛省と連携強化を図るとの事ですが、沖縄県・尖閣諸島周辺等の領海警備体制をさらに強化する為、海上保安庁は二八日、ジェット機や巡視船の新造などを柱とした二〇一五年度予算概算要求をまとめました。
その要求額は十二年度から続く尖閣諸島警備専従部隊用の大型巡視船建造も続いており、過去二番目に多い約二〇四一億円となりました。
政府は七月の閣議決定で、武力攻撃に至らない「グレーゾーン事態」に対し、自衛隊や海保・警察が分担して協力する事を定め、これを受け海保は、航空機のパトロール回数や情報収集の専門職員を増やして不審な船の監視や分析体制を整備し、本庁警備情報課に「船舶動静情報調整官」を新たに任命して、防衛省等との情報交換の強化を目論んでいます。
以上のように中国、北朝鮮、ロシア、さらには韓国までをも藪睨みし乍ら、国境の島々は元より、沖縄やそして日本全体を守るためには、正しい愛国心に溢れた良識ある国民が、現政権とその政策を支えねばなりません。
そこで二十九日、宮崎県議会内の自民党県議団事務局に横田会長を表敬し、別紙の如く「憲法改正の早期実現を国会に求める意見書」の採択手続きを、九月県議会中に取って頂く要望書を、三名の同志と共に手渡してきたところです。
十屋幸平、黒木正一両県議にもご同席を賜り、その趣旨を充分理解して頂いたものと確信致しておりますので、皆様も九月県議会には何卒ご注目下さい。
本来ならば自民党自らが昭和三一年十一月十五日に作成した「立党の使命」に立ち戻り、旗を振り、汗を流すべきところなのでしょうが、如何せん選挙が近くづくと票には直結せぬ国防や教育、さらには憲法問題等は先送りです。
「慎重な議論を」、「熟議を重ね」、「時期尚早」等々の常套文句を聞かされて続けて、サンフランシスコ講和条約から早や六三年の歳月が流れました。
昭和二六年九月八日、麻生太郎前総理が通う学習院小学校に、祖父の吉田茂当時総理が車で迎えに来て、靖国神社の英霊に対し日本独立の報告をする為に、一緒に参拝した逸話は余りに有名ですが、それも徐々に色褪せて、風化しつつあるような気がするのは私一人なのでしょうか？
立秋とは云えまだ残暑が続きますので、何卒ご自愛専一にお過ごし下さい。

平成二六年九月一日

宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部

支部長　小倉和彦